

4 より実践的な作成技術

4.1 レイアウト

float などの CSS プロパティを使用することで、HTML 文書を自由にレイアウトが可能になる
→ 基本) ページ要素をブロック化すること、そしてブロック単位で回り込み表示させること

関連)

- ・ ブロック要素(要素のグループ化)
 - ・ `div` - ブロック要素(学習済み)
→ div コンテナ
- ・ `float` プロパティ - 要素の回り込み指定(学習済み)
- ・ `overflow` プロパティ - はみ出した部分の表示方法
visible, scroll, hidden, auto
- ・ `position` プロパティ - ボックスの表示・配置の位置決め
- ・ `display` プロパティ - 要素のインライン・ブロック表示形式切り替え

実習) height, width プロパティを使用してページ上にボックスを表示させてみよう

実習) ページ上にボックスを並べて効果を見てみよう

- ① float left + float right
- ② float left + float right

実習) 作成した授業ページを2コラムレイアウトに

関連) HTML5 のセクション要素

- アウトライン構造とセマンティクス
- header, footer, nav, main, article, section, aside など
- div 要素で代用する?

関連) 以前は フレーム (HTML5 では廃止) や table 要素などを使用していたことも・・・

- HTML5 では iframe 要素(インラインフレーム)
- アクセシビリティ上の問題から

